

地域と一体でワンウェイプラスチック削減に取り組むボトルフリープロジェクト

ウォータースタンド株式会社 ESG推進室

弊社は、1969年の創業以来、お客様に「環境へのやさしさ」と「快適さ」とを両立する商品をお届けして参りました。

2012年に韓国Coway社と業務提携したことをきっかけに、水道水を浄化し使用するウォーターサーバー「ウォータースタンド」のレンタル事業を本格化しました。ウォータースタンド事業開始時には、弊社でもまだボトル式ウォーターサーバー^{*}の取り扱いを行っていましたが(※2021年9月に撤退)。ウォータースタンドとボトル式ウォーターサーバーを同時に取り扱うことで、プラスチックボトルごみが出ず、運搬に伴うCO₂排出もないウォータースタンドの環境側面での優位性を強く感じるようになりました。



2015年に国連でSDGs(Sustainable Development Goals, 持続可能な開発目標)が採択され、プラスチックによる海洋汚染や温室効果ガスによる気候変動などがメディアで取り上げられることが増えてきました。また、同年パリ協定が採択され世界共通の長期目標として今後の気温上昇を産業革命以前と比べて2℃より十分低く抑える努力を追求することが決定しました。

ちょうどこの頃、ウォータースタンドの機能と浄水品質を活かせば使い捨てプラスチックの削減に貢献できるとの考えに至り、プラスチックボトルを使い捨てするのではなく、外出時もマイボトルに給水いただくことを広

く呼び掛け、顕在化しつつあった社会課題解決への貢献を目指すようになりました。2018年7月には、「ウォータースタンド」事業を弊社のコア事業に転換し、社名もウォータースタンド株式会社へ変更、全国に拠点を拡大し始めました。

2020年7月のレジ袋有料化を始め、プラスチック資源の循環や使い捨てプラスチック削減は喫緊の課題となっており、SDGsにおいても環境負荷軽減は重要な要素です。一方で、国内におけるボトル入り飲料水の消費量は年々増加しており、安全安心でおいしいお水のニーズは拡大して参りました。

浄水型ウォーターサーバー「ウォータースタンド」は水道インフラを活用するため、地下水の採掘やボトルの運搬などで生じる環境負荷を生じさせません。設置いただくユーザー様にとっては、浄水能力の高いウォーターサーバーを初期コストなしで導入でき、また定期的なメンテナンスで品質・性能が維持され、レンタル定額制でおいしいお水が使い放題となり、コスト軽減にもつながります。

誰もがアクセスできる水道水を使用し、マイボトルへ給水することは、気候変動の緩和策としてのCO₂排出量の削減・使い捨てプラスチックの削減と、適応策としての水分補給のニーズ、気候変動対策の両方を同時に実現する取り組みとなりえます。

2019年から2022年6月末までに全国の自治体・教育委員会とワンウェイプラスチック削減に向けた73の協定を締結し、地域の公共施設等に「ウォータースタンド」を設置して参りました。2023年5月末現在、誰でも無料で給水できるマイボトル用ウォータースタンドは2,290台設置しています。今後、こうしたマイボトル用給水機を全国に1万台設置することを目標としています。プラスチックボトル入りの飲料水を買う以外の選択肢として、マ

イボトル用給水機が街中に設置されていれば、マイボトルを携帯する動機となります。これにより、国内で1年間に出荷されている使い捨てプラスチックボトル約250億本のうち30億本を2030年までに削減し、持続可能な社会の実現に貢献することを目指しています。



ウォータースタンドは水道水を活用しているため、ボトル式ウォーターサーバーと異なり使用回数に上限はありません。地域に密着し、地域の方に活用いただけるウォータースタンドとなるよう、各自治体の地域課題やニーズに合わせてウォータースタンドを設置しています。熱中症対策としてクーリングシェルターの整備を進める自治体、脱炭素社会実現に向けて自転車の利用拡大を図るためサイクルステーションへの設置を希望される自治体など、地域ごとに様々なニーズがあります。なお、常温水タイプの「ウォータースタンド」(ナノスタンド) 1台のろ過能力7,300リットルから勘案すると、500mlのペットボトル14,600本分の使い捨てプラスチックボトルを削減できると推計できます。



弊社では、ウォータースタンドの設置台数によって使い捨てプラスチックボトル30億本

の削減までの進捗を管理しています。2023年からは、プラスチック容器のCO₂排出だけでなく、ボトル入り飲料水を運搬する際に排出するCO₂を含めて排出抑制量を推計して参ります。国内のCO₂排出抑制量の目標に照らすと微々たる貢献度ですが、「ボトルフリープロジェクト」は誰もがすぐに取り組み、ライフスタイル全般を見直すことに繋がる波及効果の高い独自の取り組みであると考えています。

なお、ウォータースタンドはレンタルサービスであるため、弊社が最終処分の段階までサーバーの所有権を有しています。このため、お客様から回収した使用済みサーバーに新品同様の機能提供を可能とするメンテナンスを実施し、リボーン機（再生機）として新たに生まれ変わらせています。これにより、廃棄物の削減や部品など資源のリユースを実現しています。このように、循環経済型ビジネスモデルを設計していくことも、企業として重要な責務であると考えています。

これまでの環境負荷軽減は、既存の仕組みの中での脱炭素が中心で最新の技術や機器への投資や開発が必要でした。当たり前だったボトル入り飲料水を浄水型ウォーターサーバーで代替するご提案は、当たり前を根本から見直し、大幅なリデュースを実現できるアイデアであると自認しています。

弊社は、80%程度と元々高い所持率であるマイボトルが、「重い」「給水する場所がない」といった理由で携帯されていない点に着目し、携帯されるための仕組みとして無料で給水できるマイボトル用給水機の設置を拡大して参りました。

これまでの活動を通じ、給水スポットをより多く使用していただくには、給水機自体の存在に対する認知拡大が必要だと感じて来ました。

いつでも水分補給できる給水スポットを拡大して、マイボトルの携帯率を向上し、脱炭素に向けた新しいライフスタイルへの転換を図るこの取り組みを評価いただき、令和4年度彩の国埼玉環境大賞「優秀賞」を受賞いたしました。これからも、より多くの方と手を携え、サーキュラー（循環）型経済社会の実現に貢献して参ります。